

第4回おやま井戸端会議 議事録要旨

日時: 令和7年1月19日(日)10:00~12:00

会場: 小山市役所1階 情報展示コーナー

出席者: 参加者19名

スケジュール:

(1) 開会	10:00
(2) 市長挨拶	10:00~10:05
(3) 運営委員紹介	10:05~10:08
(4) 市からの説明(国際政策課)	10:08~10:15
(5) 意見交換	10:15~11:35
(6) 意見共有	11:35~11:45
(7) 市長、副市長、運営委員長総評	11:45~11:55
(8) 閉会	12:00

参加者(運営委員含む)の意見(要約)

A グループ

【現状】

- ・外国人は地域との関わりが少ない。
- ・自治会に参加していない外国人が多いので情報が伝わらない。
- ・国際交流協会で言語教室を開いているが、場所の確保と、情報の発信が難しい。

【意見】

- ・小山市に外国人が多い理由は、大きな企業が多く職がある・生活のコストを抑えられる・東京に遊びに行きやすい距離・優しい人が多い・都会と田舎が調和している・子育てがしやすい、という住みやすさがあるからだと思う。
- ・日本人はやさしい日本語を話すことを意識し、外国人は日本語を覚えるといった、お互いの歩み寄りの姿勢が大切である。
- ・昔はみんなで協力して生きていたが、今はみんな自由に生きているため協力しなくなっている。外国人も含め、行政は経済的に余裕のない人たちを助ける政策をするべきである。

【要望】

- ・無料で気軽に参加できるイベントを増やして欲しい。
- ・小山市在住の外国人が多い国のフェスティバルを開催してはどうか。
- ・外国人で経済的に余裕がない人はよく駅を使うので、小山駅をもっと活性化して欲しい
- ・食のイベントをもっと増やして欲しい。
- ・宗教上の理由で原材料を知りたい場合もあるので、飲食店のメニューを多言語化して欲しい。
- ・外国人は市役所に行けば情報が得られるということをみんな知っているわけではないので、駅にインフォメーションセンターがあると良い。

【提案】

- ・ロブレを活用して、外国人が働くために必要なことを教える場や、各国のコミュニティを集約した場を作ってはどうか。

第4回おやま井戸端会議 議事録要旨

- ・QRコードを活用して、外国人向けの情報発信をしてはどうか。
- ・小山市の企業や小山市もインターナショナルジョブフェア東京に参加してみてもどうか。

B グループ

(1)ゴミ捨てについて

【現状】

- ・外国人はゴミ捨てのルールが守れていない、ゴミの分別ができていないという話を聞くことがあり、外国人に対して悪い印象(先入観)を抱いてしまうと聞く。

【意見・要望等】

- ・多言語に対応しているゴミ捨てアプリを活用すれば外国人もゴミ捨てのルール等が分かるのではないか。
- ・そもそもゴミ捨てに関するルールが細かすぎる。日本人でも間違える人が多いのだから外国人では尚更難しい。
- ・ゴミ捨てのルールや分別方法を間違えてしまったとしても、近所の方に優しく教えてもらえれば外国人もそのルールを守る。外国人だから分からないだろうと知らんぷりして欲しくない。
- ・普段から近所に住む外国人との付き合いがあれば、その外国人の人柄を知ることができる。そうすれば、近所の人「この人はゴミ捨てのルールを破る人ではない」と考えると思う。
- ・外国人が小山市へ転入したときに、市役所ではゴミ捨てのルールをどのように説明しているのか。最初に丁寧に説明して理解をしてもらうことが重要。
- ・ゴミ捨てにしても何にしても日本の書類は難しすぎる。分かりやすくしてほしい。

(2)生活全般について

【意見・要望等】

- ・外国人は日本の習慣や文化を尊重することが必要であるし、外国人も日本の習慣・文化に従いたいという思いがある。
- ・日本人は外国人が日本語を学ぶ姿勢を尊重してほしい。
- ・外国人が日本人と交流してコミュニケーションをとるためには日本語を学ぶ必要があるが、日本語を学ぶ機会が少ない。学びの機会を増やしたり日本語を学びたい人向けの塾を開講したりしてほしい。
- ・日常では外国人と日本人が接する機会が少ないので、外国人と日本人との交流が身近となるような施設や環境を整備してほしい。
- ・外国人が学んだ日本語を使って日本人と交流できるような場を作ってほしい。日本語を学んだ外国人が主役となれるような場だと尚良い。

(3)学校・教育関係について

【現状】

- ・日本の学校は外国人世帯の子へのフォローが少ない。勉強についていけず希望の進路へ進めない子もいる。
- ・先生が外国人世帯の保護者と上手くコミュニケーションが取れていないことがある。

【意見・要望等】

- ・昔より外国人の子どもの数は増えているのに、教育現場は変わっていないと感じる。

第4回おやま井戸端会議 議事録要旨

- ・小山市に移住してきた外国人世帯の子は、出身国によって新学期の開始時期が異なっている等の事情があるため、転入した時期や日本語の習熟度等により、本来の学年より下の学年への転入が可能といった柔軟な対応を取ってほしい。現状の法令等によってできないのであれば、県や国に対して要望活動をお願いしたい。
- ・小山市外国人児童生徒適応指導教室かけはし(以下、「かけはし」という。)等の日本語教室の授業時間帯をもっと柔軟に、幅広いものにしてほしい。児童の習熟度によっては、通常の日本人の授業に参加できるような配慮をお願いしたい。
- ・かけはし等に出席している児童は、他の(=在籍校の)日本人児童とのコミュニケーションの時間が取れないことから、在籍校に戻った後、日本人児童との間で壁ができてしまっていると感じる。児童の年齢その他の事情によっては、かけはし等に入るのではなく、初めから普通の日本人の学級に入った方がいいケースもあるので、もっと当事者の声を聴いてほしい。
- ・幼年期・低学年であれば、初めから日本人の学級に入った方が、日本語の習熟が早く進むことも多い。幼児期からの日本語教育が重要だと思う。西日本地域では、公立プレスクールの事例もある。
- ・外国人世帯について、高校進学前の時期における保護者への情報提供・相談の機会が不足していると思う。大事な進学の時期ではあるが、子どもが思春期で親をけむたがる年齢ということもあり、外国人世帯の子と親の間でのコミュニケーションが上手く取れていないケースも多いため、学校から保護者への情報提供や懇談の機会を増やして欲しい。
- ・外国人世帯の子への教育も大切だが、親への教育も必要だと思う。